



SBIいきいき少額短期保険「ペットに関するアンケート調査」

シニア世代におけるペット飼育の心配は世帯別で異なる結果に

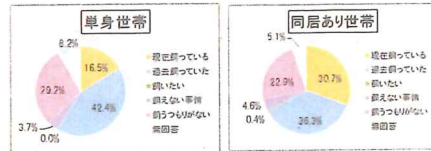
SBIいきいき少額短期保険（本社・東京都港区、社長・高崎誠治氏）は2017年9月に業界最安水準の保険料でペット保険分野に参入したことを契機に、シニア世代を取り巻く環境調査のひとつとして、ペットとの関わりについてアンケートを行った。

特に、ペット飼育において単身世帯（単身）と同居あり世帯（同居）の違いが出る点に着目して、保険加入者を対象に「ペットに関するアンケート調査」を実施し、1083人の回答を得た。

◆犬・猫の飼育経験は同居が単身の倍近い比率に

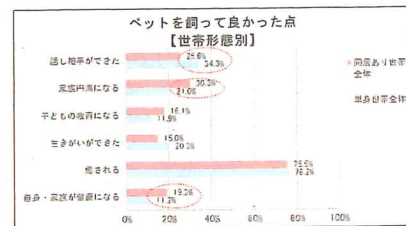
全回答者の6割超が飼育経験者で、世帯別にみると「現在飼っている」は単身が16.5%に対して、同居は30.7%と倍近い比率となった。「過去に飼っていた」は単身が42.4%、同居が36.3%となり、「飼うつもりがない」は単身で「過去に飼っていた」「飼うつもりがない」のポイントが高くなっている理由として、「自分の年齢が年齢なの

で、先に亡くなった後、犬猫がどうなるか先の事を考えるととても飼う事が出来ない（86歳女性）」など、自身の年齢における懸念を挙げるコメントが多くあった。



◆「ペットの役割」は単身では、話し相手の傾向がより高い

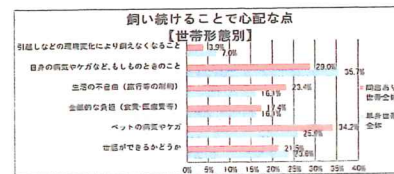
単身・同居の世帯別にみると、単身では「話し相手」が34.3%と同居（25.6%）に対して、8.7%も高い結果となった。逆に同居が単身を上回る回答となったのは、「家族円満になる」「自身・家族が健康になる」が各々8～9%も高い結果となった。



◆ペットを飼う上での心配ごとは単身が飼い主の場合「自身の病気やケガ」が第1位

単身・同居の世帯別にみると、同居では「ペットの病気やケガ（34.2%）」が総合計と同じく1位だが、単身では「ペットの病気やケガ（25.9%）」を約10%上回り、「自身の病気やケガ（35.7%）」の心配が最も多くなった。

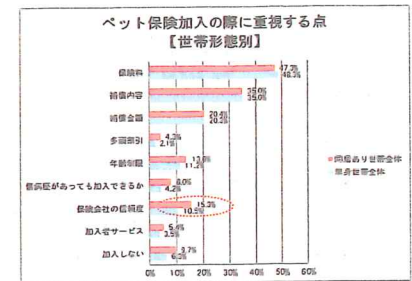
単身と比較して同居が高い回答率となったのは、「生活の不自由（旅行等の制約等）（23.4%）」であった。



◆同居では「保険会社の信頼度」をより重視する傾向

回答合計では「保険料」、「補償内容」、「補償金額」の順となっているが、世帯別でみて最も差が出たのは「保険会社の信頼度」で、同居（15.3%）に対して単身は10.5%となった。

「補償内容」については、「過去に飼っていた犬はアレルギーがあり医療費が負担だったのでアレルギーも補償されるペット保険があれば（74歳女性）」といった声があった。「年齢制限」については、回答比率は低いものの、「ペットも高齢になると新たな保険加入が難しいのは理解できるが、年金生活には負担が大きく何とかならないか（68歳女性）」と加入年齢に対する心配の声が寄せられた。



◎加入者アンケート調査の概要◎

調査対象：保険契約者
 全国男女5万6098人
 調査方法：当社会報誌「いきいき世代通信」同封アンケートに自筆記入の上、当社へ返送
 調査期間：2017年9月26日～2017年11月15日までの回答分
 回答人数：1083名
 回答者構成：約50%が70歳以上。女性が約64%、男性約24%、性別無回答約12%

【問い合わせ先】

SBIいきいき少額短期保険
 経営企画部 広報グループ
 ☎03・6856・4536